

Q&A 第7章の中から～第八の戒め

質問 73 第八の戒めは、何ですか。

答え I 第八の戒めは、「盗んではならない」です。

質問 74 第八の戒めでは、何が求められていますか。

答え I 第八の戒めでは、私たち自身と他の人々の富と財産を合法的に獲得し、殖やすことを求めています。

質問 75 第八の戒めでは、何が禁じられていますか。

答え I 第八の戒めでは、私たち自身や隣人の富や財産を不当に損なったり、あるいは その恐れのあるすべてのことを禁じています。

1. 第八の戒めは「盗んではならない」です。盗む原因は 何処にありますか。

盗む第一の原因は、不信仰から出ます。神の摂理を信じないから、不法によって財物を取ろうとするからです。神は荒野でも食卓を備えられました。神は、どのような状況でもご自身の民を養い育てます。このように供給してくださる神を信じないで、人の物を盗むことが起きます。盗むことの第二の原因は、貪欲か

らです。アカンは欲望によって盗みました（ヨシュア 7:20）。勿論、このような欲望の要因には外部的な要因がありますが、悪魔が誘惑して盗むようにさせます。悪魔はイスカリオテ・ユダの考えを支配し、盗むようにさせました。

2. 盗むことの種類には どのようなことがありますか。

神のものを奪う盗みがあります。神の日である主日を聖なる日として守らないのは、日を盗んだこととなります。他の人の霊魂を奪うことも盗みです。偽りの教えによって、他の人を異端と偽りに陥るようさせ、霊魂が滅びるようになるからです。それは盗みでありながら、殺人罪に該当されます。他の人の金と財産を奪うことも盗みであり、不法な取引によって利得を得るのも盗みです。商業の取引で正直に行わないのも盗みです。品々の価格と重さを騙して売るのも盗みです。他の人に金を借りて返さないのも盗みに該当され、孤児とやもめのようない力のない者の物を、力によって奪取するのも盗みです。

3. 第八の戒めが、求めるのは 何ですか。

財産を所得するときには、正直でありなさいということです（エペソ 4:28）。合法的な方法によって富と財産を得なさいということです。合法的な手段でなく、不法的な方法と手段を使って財産を得るのは盗みです。従って、私たちは、信仰に相応しく職業を選び、職業を通してこの世のために善なる事を殖やすべきであって、勤勉で一生懸命に仕事をすべきです（ロマ 2:17）。それゆえ、怠けながら時間を浪費し、働かずに遊んでいるのも盗みです。

4. 労働をし、労苦するのが 必要な理由は 何ですか。

使徒パウロは仕事をしたくない者は食べてもならないと語っています（Ⅱテサロニケ 3:10）。仕事をして労苦するのは、自分にとっては自然的必要であり、他の人にとっては道徳的 necessary です。私たち自身が労働して労苦しながら生計に

責任を持ち、一方で、他の人に益になるようになるためです。勿論、私たちが労働して労苦すると言っても、神が祝福してくださなければ何もならないです。神が祝福してくださってこそ、財物を得ることができます（箴 10:22）。

5. 労働をし、労苦をする目的は 何ですか。

キリスト者が、労働をし労苦するのは、私たちの労働に神が祝福してくださって、私たちが持っているのは主がくださったことであると現すためです（箴 3:9）。勿論、私たち自身を安楽にさせようとする目的もあります（伝道 5:9）。しかし、私たちの労働と労苦が、他の人に益となるようにすることが目的です（エペソ 4:28）。従って、労苦して得た財産によって、すべての人に正しく使用すべきであり（詩 15:2）救済と助けが必要な者たちに供給してあげるべきです（Iヨハネ 3:17）。敬虔の目的のために労働をし、労苦し、財産を得ることです（民 5:8）

6. 聖書では、救済する方法について どのように語っていますか。

第八の戒めでは、貧しい者の必要を満たすことを求めています。私たちの隣人の中に貧しさによって困っている者がいるなら、憐れむ心を持ち、彼らに財物を施しに用いることです。最も、救済する時には、特に信仰の家族の人たちにしなさいと聖書は語っています（ガラテヤ 6:10）。救済は、私たちの状況に合わせて許可される範囲で真実にすべきです（Iヨハネ 3:17）。外面的にしたり、自分を見せるために救済するのは禁じています（マタイ 6:2-5）。聖書には、このような貧しい者に施しをすることについて、神が報いてくださると語っています（箴 19:17）。

7. 「盗んではならない」と、第八の戒めが 共同体に及ぼす影響は何ですか。

第八の戒めは、個人が持っている財産権を不法に侵害してはならないとのこ

とです（レビ記 6:4）。第八の戒めが、個人の財産権を保護する戒めだと言われても、この戒めは、共同体の有益を促進させるためです。盗みとは商業を破壊させ、すべての慈悲行為を廃止させます。また、怠けることを助長させ、社会に悪を蔓延させます。従って、第八の戒めは、盗み、あるいは、他の人の物を奪うことを禁じる戒めですが、共同体、あるいは、社会が、すべての人に有益を与えるようにさせる戒めになります。

8. 第八の戒めは、誰のものを盗んではならないと言うのですか。

第八の戒めは、自分自身のものと、他の人の物を盗んではならないと言われます。自分自身のものを盗むとは、怠けること、異常なほどのケチと、浪費によって自分の財産に損傷を加えることです。ケチが盗むことに該当されるのは、神がくださった財産を相応しい用度で使用すべきなのに、自分が搾取するからです（伝道 6:2）。自分の収入より、もっと多い支出をする浪費も、やはり自分自身の物を盗むことです（箴 23:20-21）。自分の財産を賭博や放蕩によって浪費するのも聖書は禁じています（箴 23:21）。最も無分別に冒険したり、むやみに保証人となって自分の財産をなくすのも禁じます。他の人の物を不法に奪い取るのが盗みですが、ここには詐欺と占有が含まれます。

9. 密かな盗みと 公的な盗みとは どのように区別されますか。

密かな盗みは、個人の物を主人の同意なしに使用したり、持っていくことです（ヨブ 1:5）。公的な盗みとは、教会と社会に対して盗みをする事として、教会の職務などを金を渡し、売り買いするのがここに該当されます。一つの例として、シモンはペテロに金を払って神の賜物を買おうとしました（使徒 8:18-19）。一方で、聖なる用度として区別された品々を持って行くのも、公的な盗みに該当されます（箴 20:25 ; マラキ 3:8）。社会に対して盗みをする事には、銅貨を溶かして他の用度に使用することに該当されます（ロマ 13:7）。

10. 盗むことの種類には、どのようなものがありますか。

暴力を加え、人の物を奪う強盗がいます（ヨブ 20:19）。人の命を脅かしながら奪うことなので、より深刻で、重い罪です。盗みをする者たちに対して、暗黙の中で同意するのも盗みに該当されます（詩 50:18）。物を買う時、その品を非難しながら値段より安く買うのも詐欺に該当され（箴 20:14）、物を売る時、相応しい価額以上にして売ったり（Iテサロニケ 4:6）、重さと大きさを騙して売ったりするのも詐欺です（申 25:13-15）。一方で、返せる能力がないのにも拘らず金を借りて返さないのも詐欺です（詩 37:21）。品々を独り占めして高い価格で販売するのも盗みに該当されます。高利貸しの様に利息を高くして利益を得るのも盗みです。金を貸したとしても、債務者が返せる程度の利息としないで圧制してはなりません（申 23:20）。